

令和2年度 第1回真庭市図書館基本計画策定委員会 議事概要

日時：令和2年9月27日（日）

午後2時00分～4時10分

場所：真庭市立中央図書館3階 会議室

1. 開 会
2. 委嘱状交付
3. あいさつ、自己紹介
4. 役員の選出について
5. 協議事項
 - (1) 新・基本計画策定に向けての手順等の確認について
 - (2) 従来構想・計画の振り返りについて
 - (3) 第1回図書館そだて会議での意見、提起された問題の整理等について
6. その他
7. 閉会

【出席委員】

井原委員、大岩委員、近藤委員、嶋田委員、杉浦委員、松尾委員、松崎委員、山本委員

議事

1. 開 会
2. 委嘱状交付
3. あいさつ、自己紹介
4. 役員の選出について
会長：嶋田委員、副会長：近藤委員 選出
5. 協議事項
 - (1) 新・基本計画策定に向けての手順等の確認について
事務局から資料に基づき説明

【質疑応答】

(会長)

次の5つの論点があった。

1. 真庭市教育振興基本計画に基づく既存の基本構想と基本計画を今後の検討の段階で一本化する
2. 策定委員会と図書館そだて会議との関連性について。両方の議論をキャッチボールしながらいわば両輪のような形で進めていきたい
3. 計画の目標や評価といったことについては、定量的なものになりがちなのだが市民の満足度を含めた質的な評価ということも含めて考えていきたい

4. コロナ禍の状況でリモートによる会議もありうるのでその辺りもお含みおきいただきたい

5. プロセスについては検討段階において出せる情報は出していくことも検討する

(委員)

工程表の第3回策定委員会の協議内容に、「真庭市図書館の未来像の検討」とあるが、新たにこういったものを作成するというのか。

(事務局)

時代とともにやはり図書館も変わっていくので、これから大体5年先、10年先でも普遍的なもの等あるかと思う。ここに多文化や障害者、LGBT、共生社会なども反映した未来像があるのではないかと。真庭らしい未来像というか、田舎のまちでも描ける未来像、そういったものを計画に反映していただければというイメージ。

(委員)

基本構想と未来像というのは同じものか。

(事務局)

基本構想も基本計画も実施計画も一つにまとめて基本計画としていくので、そういった理念的な部分、大きな考え方というものも含まれる。

(会長)

まちづくりの観点から何かご意見があったら是非お願いしたい。

(委員)

この基本計画策定にあたり策定委員会と図書館そで会議との両輪で進めるということだが、おそらく市民レベルでは計画を作るという概念がないと思う。この委員会のあり方としては、もっと目線を下げて、図書館の使い方や図書館で何があったら楽しいのかといったものを具現化し、それによって何が広がっていくのかという発想を持って進めることなのかなと感じている。

あと一点、移動図書館の活用がなかなか浸透していないような気がするのでより具体的な基本方針を打ち出していきたい。

(会長)

今のご提言について事務局はどうか。

(事務局)

事務局からは特にないが、おっしゃる通りだと思う。市民レベルで、こういうことをやってほしい等、出てくると思うので、できるだけいい形でまとめさせていただけたらと思う。

(会長)

先ほどの委員のご提言は、市民の皆さんとのミーティングで出た意見を踏まえた計画策定ではあるが、同時にそれを読むと図書館ってこんなことができるのかとか、こういうために図書館があるのだということが伝わるようなものにもなってほしいというご意見だったと思う。大変重要なご指摘だと感じた。

他にいかがでしょう。〇〇委員、学校図書館と公共図書館の関係性について、今後の計画策定に向けてお考えになっていることや要望など何かありましたら。

(委員)

学校と図書館との連携を推進することをこの計画の中に盛り込んでいけたらいいなと考えている。

(会長)

他に、みなさんのお立場でこういったことに配慮してほしいといった要望や意見があれば。

(委員)

わたしが委員として選ばれた理由はおそらく多文化の共生や国際的なものの見方、場づくりについてを考えるとのことだと思う。わたしが留学していたデンマークでは教育哲学者の「本というのは死んだ知識である」という言葉があり、生きた言葉で知識を伝え続けなければならないというように理解をされる。デンマークには「ヒューマンライブラリー」という取り組みなどもあり、先ほどもあったが物語を紡いでいくことが非常に大切にされている。単発の知識、点と点ではなく、それがつながった線のようなものをしっかりと語り直していく、そういった行事などでお手伝いできることがあるかなと、みなさんの話を聞きながら考えていた。

(会長)

ほかによろしいか。事務局の説明に沿って策定を進めていくということでみなさんご承認いただくということでは次に移る。休憩したほうがよいか。

(事務局)

その前に、アカデミックリソースガイド (arg) の岡本さんが来られたので自己紹介を兼ねて会社の取り組み等をお話しいただいてから休憩としたい。

〈自己紹介と会社のと取り組み概要説明〉

〈5分休憩〉

(2) 従来構想・計画の振り返りについて

事務局から資料に基づき説明

【質疑応答】

(会長)

事務局から従来構想と計画の振り返りについて課題も含めて説明があった。先ほどご発言いただいた方以外から質問などあればお願いします。

(委員)

各地域に子どもたちが集えるところがなかなかない。図書館に集まってきてちょっと遊べて、本を読んでというのが親御さんにとってよいのではないか。真庭の子育てに関わることにふれてはどうか。

(委員)

学校図書館の活用を検討すると書いているが、どう検討していくかは非常に難しい部分があるのではないか。真庭市は小さな学校が多く、学校図書館もスペースが限られている。小学校では読み聞かせなどいろいろされていると思うが、中学校では昼休み以外に図書館に行く時間はなかなか無く十分な活用ができない。

どちらかというと今、GIGAスクール構想のもとでデジタル化が進み、パソコン教室でいかにデジタル教材を使うかといったことをしており、正直、図書館は忘れられていくのではないかとことがある。勝山中学校でいえば中央図書館など地区の図書館とどう連携していくかというあたりだと思う。どうがんばっても中央図書館に学校図書館が勝てるわけがない。前任校ではひとつの町に一つの中学校、一町一中というところに勤めていた。そういうところだと図書館と学校は本当につながっていて、町の図書館から学校に司書が来る。依頼するとすぐに町の図書館からいろいろ借りることができる。せっかくいいものがあるところはどうやってつくっていくか。整備が急務とあるが具体的にどう進めていくのかということを考えていただかないといけない。

(会長)

今の指摘について事務局から現時点での考えや補足説明があるか。

(事務局)

補足する。今年4月から司書未配置の8校の小学校に中央図書館から2名の司書を派遣している。1校あたり1か月に2回程度。これにより真庭市の学校の司書未配置校がなくなった。中学校には派遣していないため、中学校の様子は月に一回程度の学校司書の打合せ会で情報が入ってくるようになった。連携としてはまだまだ発展途上にあると思っている。

(会長)

学校司書の配置は、たとえば年度目標を立てて何年までに何校と考えているか。あるいは新しい基本計画に盛り込む考えがあるか。

(事務局)

具体的な目標はこちらでは持っていない。この計画の中で検討した方がいいと委員の皆さんがお考えであればそういったご提言とかご意見を頂きたい。

(会長)

それではほかに、協議事項(2)についてご意見ある方は。

(委員)

真庭市図書館基本構想の2ページにある「目指す図書館像」は工程表の「真庭市図書館の未来像」と対応していると考えてよいか。

(事務局)

現図書館基本構想では、こちらの図書館像ということになっているので、この中身をさらに発展させていくのか、それともこれはこれで残していくのかこれからこの会議の中で検討していただければと思う。

(委員)

今までこの目指す図書館像でめざしていたものから出発するのか、それとも全く別とか新たに別の未来像の検討から始めるのか。未来像があってそこから計画を立てるのか、逆に計画を示してそこから未来像が見えてくるのか、同時に進めることもできるかとは思いますが、それについてはどのようにお考えか。現とか旧図書館像とまったく別の未来像がこれから提示されるの可能性もあると考えてよいか。

(事務局)

今までこの目指すべき未来像というのがあるので、これを踏まえてさらに発展させるべきところは発展させ、これはもう達成したというところは新たな目標を設定するというようなことにしていただけたらと思う。

(委員)

旧基本構想に書かれている目指す図書館像の五つというのは、図書館としては当たり前のことなので、全ての図書館が目指しているものじゃないかと思う。その上でこの新たな時代にどういった図書館、時代の要請に応える図書館ということはこの五つの土台の上に築くということではないか。

(会長)

基本構想に示されている図書館像というのは、使命のようなものでこれをベースに新たなビジョンとしての未来像を描いていくというようなお考えであると。今、お話をいただいた。

従来構想と計画の振り返りについては以上をもって確認したということにしたい。

(3) 第1回図書館そだて会議での意見、提起された問題の整理等について
事務局から資料に基づき説明

続いて、杉浦中央図書館長よりスライドによる説明

【質疑応答】

(会長)

委員の皆様からご質問やご意見をお伺いしたい。

(委員：委員会終了後メールでいただいたご意見)

図書館を知の拠点として、また地域づくりや文化振興の拠点として「そだてていく会議」の委員になれたことを光栄に思っている。最後の館長のビジョンにも大変共感した。今回は財政面でのハードルのことは考えず「あったらいいな」ということを列挙する。すでに取り組みられている内容があればご放念を。

- ①学校図書との連携：大阪市の中学校教員だったときに、職業について知るキャリア教育や、世界の取り組みについて知るSDG s 関連の教育で、図書資料とパソコンが同時に同じ場所にあると大変助かったことを記憶している。テーマごとに図書資料の貸出があれば、パソコン教室において探求学習が進むのではないかな。県立高校でも活用できるし、市民向けにも開催が可能になる。
- ②静読室の設置：こども目線で考えると、ここでは静かにする「静読室」があり、それ以外の場所では小声で話していい、と言ってあげる方が居心地がよいつと感じた。大人にとっても、静けさを大切にしつつ、話していいと宣言してしまうことはよいのではないかな。
- ③ヒューマンライブラリー：先日、ドイツ映画祭の中の共生社会に関する座談会でも、活発な対話が行われていた。物語を紡ぐ、語り直すということが話者にとっても聞き手にとっても、司書のいる図書館という教育空間においても重要な意味を持つということを実感した。ヒューマンライブラリー形式で定例化できればと思った。参考→www.tokyo-humanlibrary.com/about
- ④語り部DVDの視聴：③とも重なるが、地域の映像記録や語り部DVDがその場で視聴できるようになっているとよい。
- ⑤司書と市民が選ぶ真庭の一冊：司書さんや市民の交流も進みそう。

(会長)

現在4時10分。終了予定時間を過ぎてしまった。皆様のご都合もあるかと思うが、延長せず終了したほうがよいか。

(事務局)

あらかじめ帰りの時間を伺っている委員もおられる。後日、担当にメールで意見をいただければ今回の意見として反映させていただく。大変申し訳ありません。

(会長)

それでは、私は議長の座をここで降ろさせていただく。事務局の皆さんお願いいたします。

6. その他

- ・ 第2回の委員会の開催は11月18日水曜日午後を予定
- ・ 内容：第1回そだて会議で提起された問題の詳細な検討
各種統計数値に等に基づく分析と評価、検証 等
- ・ 過去5年間の一般会計と図書館費、そして一般会計費に対する図書館費の比率を提示する

7. 閉会